

科 目 名		学年		
国語Ⅳ : Japanese IV		4B		
教 員 名 畑村 学 : HATAMURA Manabu				
単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態	学 修 単 位
1	100分×15回	必修	講義・後期	○
授 業 概 要				
漢詩を素材として、プレゼンテーション力を身につけるための授業を演習形式で行う。本授業を通じて、読む力・書く力・話す力・聴く力を修得する。 学生全員が、プレゼンテーションと司会を1回ずつ行う。1人で1首担当する。発表時間は1人10分＋質疑応答の時間。1回の授業で3～4人が担当する。 上記以外に、プレゼンテーション力を習得するための、図解、スピーチなども適宜行う。				
到 達 目 標		評 価 方 法		
(1)発表者として、收拾した資料を参考に漢詩を 読解し、考察のテーマを決める。聴き手として は、他者の資料を読み発表内容及び考察のポ イントを理解する。(読む力) (2)レジュメを作成する。見やすさか りやすさを考慮し資料を作る。4段構成で考 察を書く。(書く力) (3)時間配分を考えながら発表の手順を決 める。聴衆を意識した話し方をする。本質 的具体的な質問を行う。(話す力) (4)質問を資料にメモしながら発表を聴く。 発表を評価する。本質的具体的な質問やコ メントをする。(聴く力) (5)資料のなかに発表内容をまとめた図を 書く。(書く力)		①プレゼンテーション:学生評価、 教員評価(発表の態度、資料)、② 定期試験、③レポート・自学自習 の記録により評価する。学期末最 終評価は、①40%、②40%、③ 20%とする。		
学 習 ・ 教 育 目 標		G①	JABEE基準1(1)	(f)
授 業 計 画		回 項 目 内 容		
第1	ガイダンス①	プレゼンテーションとは何か、プレゼン テーションの必要性、その方法を説明する。また、 プレゼンテーションの聴き方、質問の仕方(態 度、レベルの高い質問等)について説明する。 資料の作成方法を説明する。説得力ある資 料を作るために、図解の手法を学ぶ。また、過 去に行われたプレゼンテーション資料をもと に、優れた資料がどのようなものか理解する。		
第2	ガイダンス②			
第3	プレゼン①			
第4	プレゼン②	プレゼンテーションは、次のような手順で行 う。		
第5	プレゼン③	○各自、漢詩1首を所定の日までに選ぶ。詩と 合わせて、プレゼンの司会をしてもらおうパート ナーも自分で決める。		
第6	プレゼン④	○自分がプレゼンを行う日(担当日)の前日ま でに、A4用紙×4枚の資料を完成させる。		
第7	プレゼン⑤	○資料には、漢詩の本文、書き下し文、口語 訳、語釈、詩人の紹介、詩題の解説、考察を行 う。考察には、考察内容をわかりやすくまと めた図解資料を掲載する。		
第8	プレゼン⑥			
第9	プレゼン⑦	○聴く側の学生は、プレゼン後に質問する。質 問の内容やレベルは「聴く力」の評価の対象と なる。また、「審査用紙」を用いてプレゼンテ ーションの態度や資料の内容を審査・評価する。		
第10	プレゼン⑧			
第11	プレゼン⑨	○プレゼン終了後、発表者は審査用紙の結果 を整理し、「まとめプリント」を作成して次の授業 までに提出する。		
第12	プレゼン⑩	プレゼンは毎週3～4名で、全員行う。 この他、プレゼンテーションスキルやコミュニ ケーションスキルを高めるためのレポート課題 を出題する。		
第13	プレゼン⑪			
第14	プレゼン⑫			
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。授業アンケ ットを行う。		
自学自習の内容		自学自習の記録、プレゼン資料の作成、レポートの提出		
関連科目		国語Ⅰ、国語Ⅱ、国語Ⅲ		
教科書				
参考書				
授業評価・理解度		最終回到授業評価アンケートを行う。		
副担当教員				
備考				